

看護栄養学部 健康栄養学科

系列 (領域)	授 業 科 目 名	履修 方法	履修単位数		備 考	
			学部共通	専門科目	シラバス 掲載頁	
育基 科礎 目教	臨床心理学概論	L	2			32
	認知症援助論	L	2			34
専 門 教 育 科 目	社会福祉概論	L		2		36
	健康管理概論	L		2		38
	解剖生理学 I	L		2		40
	運動生理学	L		2		42
	野分門専 応用栄養学 I	L		2		44
計			4	10		
合 計			14			

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	臨床心理学概論
代表ナンバリングコード	00014BG02
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 餅原 尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	<p>病み、悩み、苦悩する人間の「みたて（アセスメント）」と「かかわり（心理療法）」について学ぶ。本講義では、人間を理解することの意味、かかわりのありよう（「生きる意味」への心理支援）について臨床心理学の視点から理解するのがねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「臨床心理学」とは何かを理解することができる。 2. 臨床心理学的アセスメントについて理解することができる。 3. 心理療法について理解することができる。 4. 現代の病理現象（トラウマ、自殺、虐待など）に鑑みつつ、事例等を通して学び、臨床心理学を学ぶ上での倫理やスーパーヴィジョンについて感得することができる。
授業の展開計画	<p>必要に応じて、話題のトピックスを取り上げたり、受講生が積極的に参加できるよう、「やってみよう」方式のアセスメント、討論等を取りあげる。</p> <p>精神科病院、保健所、学校（スクールカウンセリング、緊急支援、特別支援教育）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援者等）における心理臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	臨床心理学とは何か（テキストP1～4） ・臨床心理学にもとめられる人間観 ・発達観
第2回	心理支援と人間観（人間理解と支援に必要な精神的風土）（テキストP4～9） ・教育観 ・臨床観
第3回	臨床心理アセスメント：人間理解の方法（テキストP11～15） ・面接法、観察法、診断基準
第4回	心理検査の意味と背景（テキストP15～18） ・「受ける側」と「する側」のありよう ・テスト・バッテリー（心理検査の種類とその組み合わせ）
第5回	心理療法（テキストP99～103） ・精神分析療法 ・行動療法 ・人間学的心理療法
第6回	・こどもの心理療法（遊戯療法：プレイ・セラピー）（テキストP55～57）
第7回	傷つきやすい人間の心理（1）（テキストP99～103） ・自我、自己の拡散と喪失 ・自我関与 ・自我の強さ ・自我同一性拡散

第8回	傷つきやすい人間の心理 (2) (テキストP103~104) ・自我、自己の拡散と喪失 ・自己実現 ・自己概念
第9回	情緒障害の心理 (テキスト) P109~115 ・神経症的不登校 ・選択性緘黙
第10回	「いじめ」現象のアセスメントと心理支援 (テキストP118~124) ・いじめる側」の心理 ・見て見ぬふりをする側の心理 ・いじめられている側の心理
第11回	病める人間 (テキストP125~139) ・心の病気 (統合失調症、神経症、心身症) ・体の病気 (エイズ)
第12回	現代社会と高齢化現象 (テキストP118~124) ・高齢の意味 ・病気や障害のある高齢者
第13回	メンタルヘルスと人間理解 (テキストP149~163) ・感情労働、共感疲労 ・惨事ストレス (GIS) ・発達障害の苦悩
第14回	被災者・被害者の心理支援 (テキストP165~204) ・PTSD (心的外傷後ストレス障害) ・緊急支援 ・サイコロジカル・ファースト・エイド (PFA)
第15回	臨床心理学における倫理とスーパーヴィジョン (テキストP205~222) ・倫理感覚の涵養 ・スーパーヴィジョン (生涯続く自己研鑽) ・「生きる意味」の確立
履修上の注意事項	守秘義務を遵守すること。
準備学習 (予習・復習等)	シラバスを参照し、講義開始前にその都度、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。講義終了後はファイル (ノート) を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、臨床心理学とは何かを理解し、アセスメントと心理療法について事例を通して感得していることを中心に評価する。「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」(30%)、「臨床心理学についての理解と心理支援についての理解度、定着度をみる学期末の課題レポート」(70%)の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著 (2019) 『臨床心理学―「生きる意味の確立」と心理支援―』八千代出版 (全員購入)
参考文献	恩田彰・伊藤隆二編 (1999) 『臨床心理学辞典』八千代出版
学修のフィードバック方法	課題 (試験やレポート等) については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験 (レポート等) については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	認知症援助論
代表ナンバリングコード	00049BG02
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
------	-----------

担当教員
氏名
◎ 小楠 範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○態度・志向性
到達目標	認知症がどのような疾患なのか、また認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのかを理解し、自分の立場でどのような支援ができるかを考えることができるようになる。 1. 認知症がどのような疾患なのか説明できる。 2. 認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのか述べることができる。 3. 認知症啓発のために自分に何が出来るかを考え、述べることができる。
授業の展開計画	認知症とそのケアについての学習を中心にすすめ、それらの学習内容を踏まえた上で、後半では認知症啓発のため自分にできることを考えていく。 高齢者ケア施設における看護師としての実務経験による具体的な例をあげながら授業を展開する。

授業計画表	
回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	認知症を引き起こす病気① 認知症とは
第3回	認知症を引き起こす病気② 認知症の原因になる代表的な病気
第4回	認知症をもつ人の困りごと① 認知症が生活に及ぼす影響
第5回	認知症をもつ人の困りごと② 必要な対応
第6回	認知症をもつ人と家族の気持ち① 事例紹介
第7回	認知症をもつ人と家族の気持ち② 事例からの考察
第8回	認知症をもつ人を支える社会システム
第9回	若年性認知症
第10回	認知症をもつ人の尊厳を支えるために
第11回	認知症ケアの歴史
第12回	認知症予防
第13回	認知症啓発のために私にできること① 個人ワーク
第14回	認知症啓発のために私にできること② グループワーク
第15回	まとめ

履修上の注意事項	1. 課題等の提出期限は、厳守すること。 2. 疑問や意見等をリアクションペーパーに記載し、積極的に授業に参加すること。 3. 認知症に関するニュース等に関心をもって、学習内容と関連づけて考えるよう努力すること。
準備学習（予習・復習等）	配布した資料は、その日の復習に活用すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。

評価方法	講義内容への関心や疑問、理解度を見る授業毎のリアクションペーパー(30%)、授業のテーマに応じて出された課題(70%)の総合評価とする。
テキスト	配布資料あり。
参考文献	河野和彦(2016)『ぜんぶわかる認知症の事典』成美堂出版 日本認知症ケア学会(2016)『改定4版 認知症ケアの基礎』日本認知症ケア学会 日本認知症ケア学会(2016)『改定4版 認知症ケアの実際I:総論』日本認知症ケア学会 他
学修のフィードバック方法	課題(試験やレポート等)については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験(レポート等)については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法:グループワーク

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	社会福祉概論
代表ナンバリングコード	00136SA20
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22149SA01
人間教育学部教育・心理学科	13136SA20

担当教員
氏名
◎ 久留須 直也

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能 ○態度・志向性
到達目標	<p>本講義は、社会福祉の基本的知識や対象者とのコミュニケーション技法の基礎を体系的に学び、それらの内容を踏まえ、保健・医療・福祉に関わる様々な職種との協働方法を理解することが目的である。</p> <p>1) 社会福祉が私達の身近な生活の中に深く関わり、生活を支えているものであるということを理解することができる。</p> <p>2) 社会福祉の基本的知識・理解を深めることができる。</p> <p>3) 社会福祉の法律や制度の仕組みについて理解することができる。</p> <p>4) 社会福祉における相談援助技法（ソーシャルワーク）について理解することができる。</p> <p>5) 社会福祉の近年の動向と課題について理解することができる。</p>
授業の展開計画	<p>本講義では、「社会福祉とは何か」という点を含め、現代社会における社会福祉の動向や理念をマクロ的視点から整理する。その後、医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助・障害者福祉・児童家庭福祉などのミクロ的視点で社会福祉の法制度や課題についても整理していく。</p> <p>また、社会福祉における専門職である「ソーシャルワーカー」が展開するソーシャルワークについても事例を通して理解を深め、実際にソーシャルワークの援助技法をロールプレイを通して体験する。病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）としての実務経験から業務の実際を活かした授業内容になる。</p>

授業計画表	
回	内容
第1回	<社会福祉の考え方> 社会福祉とは何か、社会福祉の構造、社会福祉における価値と倫理
第2回	<社会福祉を取り巻く環境> 少子高齢社会の現状、現代家族の動向、現代の貧困問題
第3回	<社会福祉の歴史> 戦前の社会福祉の歴史、戦後の社会福祉の歴史、社会福祉基礎構造改革、2000年以降の動向
第4回	<社会福祉の仕組みと社会福祉サービスの利用の仕組み> 社会福祉の法律、社会福祉を支える行政の仕組み、社会福祉を支える国の財政、社会福祉の費用負担、社会福祉の事業の範囲
第5回	<社会福祉の機関と施設> 社会福祉を支える機関、社会福祉を支える施設 <社会保障の分類>
第6回	<年金制度と医療保険の仕組み> 国民年金、厚生年金 被用者保険、患者負担、高額療養費
第7回	<低所得者福祉（公的扶助）> 貧困と低所得の概念、生活保護の仕組み

第8回	<児童家庭福祉> 児童の定義、児童福祉法、DV対策、児童虐待
第9回	<高齢者福祉①> 介護保険制度創設の背景、介護保険のサービス利用プロセス
第10回	<高齢者福祉②> 介護保険サービスの種類、地域包括支援センター
第11回	<障害者福祉> 障害者の定義、障害者の理念、障害者総合支援法
第12回	<地域福祉と利用者保護制度> 地域福祉とは、地域福祉を支える機関・団体、地域福祉活動の内容 利用者保護の背景、成年後見制度、日常生活自立支援事業
第13回	<社会福祉援助技術①> 社会福祉援助の定義、社会福祉援助技術の体系
第14回	<社会福祉援助技術②> ソーシャルワークの援助技法の理解（ロールプレイ含む）
第15回	<社会福祉の担い手> 社会福祉に関する職場・職種、社会福祉分野の資格、多職種連携
履修上の注意事項	本講義は、基本的に土曜日に集中講義（各日、2～3コマ程度）として実施する。 原則、PowerPointを使用して講義を展開する。 講義終了前に「コメントシート」（レスポンスシート）を配布するので、講義終了までに講義の理解度、講義の要点・感想、質問等を記載すること。（質問については、次回の講義時に回答する。）
準備学習（予習・復習等）	予習として、授業の展開計画に該当する講義資料集及びテキストの箇所を読み、専門用語の意味や講義内容の概略を理解して、受講すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	期末試験60%、コメントシートの提出20%、学習態度10%、授業への意欲10%の結果を含めて評価する。
テキスト	石田慎二・山縣文治 編著（2017）『新・プリマーズ／保育／福祉 社会福祉（第5版）』 ミネルヴァ書房（全員購入） 第1回目の講義時に講義資料集を配布するので、毎回持参すること。
参考文献	特になし
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：ロールプレイング

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	健康管理概論
代表ナンバリングコード	22349SA02
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22349SA02

担当教員
氏名
◎ 岩田 真一

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎総合的な学習経験と創造的思考力、○汎用的技能、態度・志向性
到達目標	<p>健康管理学として健康の定義、健康管理、疫学などについて理解し、管理栄養士に必要な知識を得る事がねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の考え方について説明できる。 2. 生態系の中の人の生活について説明できる。 3. わが国における健康の現状について説明できる。 4. 疫学の方法について説明できる。 5. 主要疾患の疫学と予防対策について説明できる。 6. 健康に関わる社会制度（関連する法規を含む）と保健対策について説明できる。
授業の展開計画	教科書に沿って講義する。重要項目をレジメを配布して解説する。総合内科専門医の教員が病院等での栄養指導を踏まえて解説する。

授業計画表	
回	内容
第1回	1 社会と健康 : A 健康の概念 B 公衆衛生の概念 C 公衆衛生・予防医学の歴史
第2回	2 環境と健康 : A 生態系と人々の生活 B 環境汚染と健康影響 C 環境衛生
第3回	3 健康、疾病、行動にかかわる統計資料 (1) : A 保健統計 B 人口静態統計 C 人口動態統計
第4回	3 健康、疾病、行動にかかわる統計資料 (2) : D 生命表 E 傷病統計
第5回	4 健康状態・疾病の測定と評価 (1) : A 疫学の方法 B 疫学指標とバイアスの制御 C 疫学の方法
第6回	4 健康状態・疾病の測定と評価 (2) : D スクリーニング E 根拠 (エビデンス) に基づいた医療 (EBM) 及び保健対策 (EBPH) F 疫学研究と倫理
第7回	5 生活習慣の現状と対策 (1) A 健康に関連する行動と社会 B 身体活動、運動 C 喫煙行動
第8回	5 生活習慣の現状と対策 (2) D 飲酒行動 E 睡眠、休養、ストレス F 歯科保健行動
第9回	6 主要疾患の疫学と予防対策 (1) A がん B 循環器疾患 C 代謝疾患
第10回	6 主要疾患の疫学と予防対策 (2) D 骨・関節疾患 E 感染症 F 精神疾患
第11回	6 主要疾患の疫学と予防対策 (3) G その他の疾患 H 自殺、不慮の事故、虐待、暴力
第12回	7 保健・医療・福祉の制度 (1) A 社会保障の概念 B 保健・医療・福祉における行政の仕組み C 医療制度 D 福祉制度
第13回	7 保健・医療・福祉の制度 (2) E 地域保健 F 母子保健 G 成人保健
第14回	7 保健・医療・福祉の制度 (3) H 高齢者保健・介護 I 産業保険 J 学校保健
第15回	7 保健・医療・福祉の制度 (4) K 国際保健 : a 地球規模の健康問題 b 国際協力 c 世界保健機関 (WHO) d 国連食糧農業機関 (FAO) コーデックス委員会 (CAC) e 国連児童基金 (UNICEF)

履修上の注意事項	新聞で医学関連の記事は読むこと
準備学習（予習・復習等）	必ず復習すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験（100点）
テキスト	中谷弥栄子、武山英麿 他（2023）『サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆衛生学健康管理概論 社会・環境と健康』第一出版（全員購入）
参考文献	なし
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

[ページの先頭へ](#)[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	解剖生理学 I
代表ナンバリングコード	22149SB01
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22149SB01

担当教員
氏名
◎ 岩田 真一

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解
到達目標	解剖生理学は正常な人体の構造と機能を学ぶ学問である。管理栄養士は今後ますますチーム医療の一員として患者さんの治療に参加する機会が多くなるので、コメディカルとしてNSTを行える能力の獲得がねらいである。解剖生理学はその第一歩である。 1. 細胞、組織、臓器・器官の構造と機能について説明できる。 2. 臓器・器官機能の調節機構について説明できる。
授業の展開計画	解剖生理学は医学を理解する第一歩である。臨床栄養学の病態理解の基礎となる。総合内科専門医の教員が病院等での栄養指導を踏まえて解説する。

授業計画表	
回	内容
第1回	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識(1):人体とはどのようなものか。体の素材としての細胞・組織(細胞の構造、細胞を構成する物質、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分化した細胞がつくる組織)
第2回	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識(2):構造と機能からみた人体(植物機能、動物機能、体液とホメオスタシス)
第3回	第2章 栄養の消化と吸収(1):口・咽頭・食道の構造と機能(咀嚼、嚥下)
第4回	第2章 栄養の消化と吸収(2):腹部消化管の構造と機能(胃、小腸、栄養素の消化と吸収、大腸)
第5回	第2章 栄養の消化と吸収(3):膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能(代謝機能、解毒・排泄機能、胆汁の産生、貯蔵機能)腹膜(腸間膜)
第6回	第3章 呼吸と血液のはたらき(1):呼吸器の構造と機能(上気道、下気道、肺、胸膜、縦隔)呼吸(内呼吸と外呼吸、呼吸運動、呼吸量、ガス交換とガスの運搬、肺の循環と血流、呼吸運動の調節、呼吸器系の病態生理)
第7回	第3章 呼吸と血液のはたらき(2):血液(白血球、赤血球、血小板、血漿蛋白、血液凝固と線維素溶解、血液型)
第8回	第4章 血液の循環とその調節(1):心臓の構造、心臓の拍出機能、末梢循環の構造
第9回	第4章 血液の循環とその調節(2):血液の循環の調節(神経系による調節、液性因子による調節)
第10回	第5章 体液の調節と尿の生成(1):腎臓の構造と機能(糸球体、尿細管、傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過量、腎臓から分泌される生理活性物質)
第11回	第5章 体液の調節と尿の生成(2):排尿路(尿管、膀胱、尿道)尿の貯蔵と排尿、体液の調節(水の出納、脱水、電解質の異常、酸塩基平衡)
第12回	第6章 内臓機能の調節(1):自律神経(交感神経と副交感神経)神経伝達物質と受容体
第13回	第6章 内臓機能の調節(2):視床下部下垂体系、甲状腺、副甲状腺、膵臓、副腎、性腺
第14回	第6章 内臓機能の調節(3):内分泌とホルモン(ホルモンの生理作用、化学構造、作用機序)ホルモン分泌の調節(フィードバック)糖代謝、カルシウム代謝、ストレスとホルモン、高血圧
第15回	第7章 からだの支持と運動:骨格、関節、骨格筋、筋の収縮の機構

履修上の注意事項	覚えるべき知識が多いので毎回の授業で習ったことはその場で覚えるように。
準備学習（予習・復習等）	必ず復習すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験（100点）
テキスト	坂井建雄（2020）『系統看護学講座 解剖生理学 第10版』 医学書院（全員購入）
参考文献	なし
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

[ページの先頭へ](#)[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	運動生理学
代表ナンバリングコード	22349SB04
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22349SB04

担当教員
氏名
◎ 松元 圭太郎

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能、態度・志向性
到達目標	<p>健康な生活を送るためには、運動・栄養・休養の3つが必要不可欠である。近年、運動不足が大きく関わっている生活習慣病やメタボリック症候群が大きな社会問題となっており、これらの疾病の予防・改善の観点から運動生理学の見識を深めることは管理栄養士・栄養士にとって重要である。運動・スポーツの側面から生理学を学び、健康の維持増進に対する運動の効果や役割に対する理解を深め、管理栄養士・栄養士としての資質を高めることが本講義のねらいである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動・身体活動が、健康に及ぼす影響や肥満・糖尿病などの生活習慣病に対する効果について理解し、説明できる。 2. 運動・身体活動時のエネルギー代謝について理解し、説明できる。 3. 運動により必要量が増加する栄養素やその機序について理解し、説明できる。 4. 健康づくりのための身体活動基準2013と健康づくりのための身体活動指針の概要について理解し、説明できる。
授業の展開計画	製薬会社での運動介入試験およびスポーツ栄養補助食品の研究開発の実務経験を活かした講義内容を含む。 “応用栄養学”の分野のうち、“運動・スポーツと栄養”と“環境と栄養”など、運動・身体活動が身体に及ぼす影響について、原則教科書に沿って15週形式で下記のとおり授業を行う。

授業計画表

回	内容
第1回	スポーツ栄養の基礎研究
第2回	環境への適応： ストレス、特殊環境
第3回	健康増進と運動： 運動不足病
第4回	運動・スポーツとエネルギー： エネルギー代謝系
第5回	運動・スポーツとエネルギー： 運動時のエネルギー代謝
第6回	運動と筋・骨系
第7回	運動と循環器系
第8回	運動と呼吸器系、神経系
第9回	運動と自律神経系、内分泌系
第10回	運動と体温調節機構： 熱中症と水分・電解質補給 スポーツと栄養： 栄養素、運動時の栄養補給、摂取タイミング
第11回	国民健康増進の取り組み： 健康日本21、健康づくりのための身体活動基準2013
第12回	運動負荷評価法、運動処方
第13回	運動療法： 肥満、糖尿病
第14回	運動療法： 高血圧、骨粗鬆症、脂質異常症

第15回	運動障害 総復習
履修上の注意事項	内容を理解するよう努めること。 わからない点は積極的に質問すること。
準備学習（予習・復習等）	毎回、授業の最初に小テストを実施するので、授業ごとに復習し、講義内容を定着させること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	評価は、「単位認定試験」（80%）、「小テスト」（10%）、「学習・受講態度」（10%）の総合評価とする。
テキスト	山本順一郎 編（2018）『運動生理学（第4版）』 化学同人（全員購入）
参考文献	朝山正己ら 編著（2020）『イラスト 運動・スポーツ生理学』 東京教学社 勝田茂 編著（2015）『入門運動生理学（第4版）』 杏林書院 中原凱文ら 著（2010）『健康科学としての運動生理学（新装版）』 文化書房博文社
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)

シラバス参照

シラバス検索 > シラバス参照

印刷する

講義名	応用栄養学 I
代表ナンバリングコード	22259SE01
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22259SE01

担当教員
氏名
◎ 今村 佳代子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 ○汎用的技能、態度・志向性
到達目標	<p>応用栄養学の分野では、人の一生を、母性期→乳児期→幼児期→学童期→思春期→成人期→高齢期というライフステージとしてとらえ、各時期の身体的、精神的特性をつかみ、栄養のあり方を学ぶことで、各ライフステージにおける栄養マネジメントの考え方を理解することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養ケア・マネジメントの概要が説明できる。 2. 食事摂取基準の基本的事項を説明できる。 3. 妊娠期・授乳期の栄養ケア・マネジメントについて説明できる。 4. 新生児期・乳児期の栄養ケア・マネジメントについて説明できる。 5. 成長期（幼児期・学童期・思春期）の栄養ケア・マネジメントについて説明できる。
授業の展開計画	管理栄養士として医療機関で様々な年代の人を対象に栄養ケアの実践経験を有する教員が、各ライフステージの身体的・精神的特徴と栄養のあり方について講義形式で伝える。

授業計画表	
回	内容
第1回	栄養ケア・マネジメント：意義と目的、アセスメント
第2回	栄養ケア・マネジメント：栄養ケア計画、モニタリング、評価、フィードバック 食事摂取基準の基礎
第3回	食事摂取基準の活用
第4回	ライフステージにおける食事摂取基準
第5回	妊娠期・授乳期の身体的特性
第6回	妊娠期・授乳期の栄養の特徴
第7回	妊娠期・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア
第8回	新生児期・乳児期の身体的特性
第9回	新生児期・乳児期の栄養の特徴
第10回	新生児期・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア
第11回	幼児期・学童期の身体的特性
第12回	幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア
第13回	学童期の栄養アセスメントと栄養ケア
第14回	思春期の身体的特性
第15回	思春期の栄養アセスメントと栄養ケア
履修上の注意事項	生化学や基礎栄養学については十分に理解をしておくこと。

準備学習（予習・復習等）	講義前にテキストの該当箇所には目を通しておくこと。 単位認定試験は広範囲となるため、毎回の講義ごとに復習をして講義内容を定着させること。 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験 90%、学習・受講態度 10%
テキスト	渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美編著（2020）『健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改訂第7版』 南江堂（全員購入）
参考文献	必要に応じてプリントを配布する。
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：調査学習、ピア・ティーチング

[ページの先頭へ](#)

[閉じる](#)